

# ピープルズ・ホープ・ジャパン 2015年度 事業報告

## 1. 概要

当期は東南アジア5ヶ国で母子保健改善を目指した教育支援活動を中心に行い、日本国内では東日本大震災の復興支援を引き続き行いました。

インドネシア・カンボジア・タイ・ベトナムでの支援活動は順調に推移し、新しい活動サイトのミャンマーでは保健省との覚書を締結後、団体登録の準備、活動候補地の調査ならびに医療機器・救急車の寄贈手続きなどを進めました。これら海外支援に対する募金活動は、収入計画（補助金を含み、商品を除く）10,077万円に対し9,511万円と計画と実績の差は566万円となりました。支出については計画10,224万円に対し実績10,253万円となり、計画と実績の差は29万円となりました。

なお商品支援についてはインドネシア・カンボジア・ミャンマーへの時計・計算機、カンボジアへの栄養機能食品など112万円のご支援を頂きました。

東日本大震災復興支援は、個人・法人から引き続きご支援の寄付を頂きました。収入は前期繰越602万円を含め1,566万円に対し、支出は1,246万円となり、残高320万円は次期に繰り越しました。

## 2. 2015年度会計概要

(単位：万円)

計画				実績		
収入	海外支援	災害支援	計	海外支援	災害支援	計
受取法人会費	3,308		3,308	3,022		3,022
受取法人寄付	2,065		2,065	1,615		1,615
受取個人会費	700		700	688		688
パーサー会費	200		200	185		185
一時寄付	700		700	640		640
災害募金		800	800		964	964
公的補助金	3,104		3,104	3,315		3,315
雑収益	—	—	—	46	—	46
商品	1,000		1,000	112	0	112
計	11,077	800	11,877	9,623	964	10,587
支出	海外支援	災害支援	計	海外支援	災害支援	計
インドネシア	1,525		1,525	1,574		1,574
カンボジア	1,735		1,735	1,894		1,894
タイ・ベトナム	3,244		3,244	3,534		3,534
ミャンマー	1,370		1,370	1,094		1,094
災害支援		1,400	1,400		1,246	1,246
募金広報費	1,700		1,700	1,523		1,523
管理費	650		650	634		634
商品	1,000		1,000	112	0	112
計	11,224	1,400	12,624	10,365	1,246	11,611
当期収支	-147	-600	-747	-742	-282	-1024
前期繰越	6,258	602	6,860	6,258	602	6,860
次期繰越	6,111	2	6,113	5,516	320	5,836

### 3. 支援活動報告(事業報告)

#### 3-1. インドネシア支援 (総事業費 1,574 万円)

##### ① バンタン州セラン県ティルタヤサ自治区地域保健医療システム強化事業 (自主事業)

本年度は、同自治区での保健医療システム強化事業の活動として、当地で建設した9か所のポスケスデス(助産診療所)を基点に14村で活動を行ってきました。安全な出産推進と子供の健康な発育を目指した地域強化を主旨とした当事業は、地元で根付いた活動として引き続き成果を挙げております。「栄養改善活動」としては、コミュニティ菜園活動のサポートを行うと共に栄養メニュー本の作成配布、栄養教育のできるボランティアの育成、家庭菜園の普及を目指した家庭菜園教室の開催を行いました。事業最終年度であるため、継続性を考えた栄養改善の取組み支援を行ってきました。「母子保健教育活動」では、月例で行われる地元助産師による母子保健健康教育も定着し、力をつけた村の助産師たちが独自の経験知識を活用し、村の母親達への良質な母子保健サービスの提供に繋がっています。医療施設での出産率も95%以上を維持しています。緊急搬送システムは、地元自治区長・助産師への間取りの結果、病院、自治区診療所、ポスケスデス間の連絡連携システムの構築・実施両面において現時点で問題なく稼働している事を確認しております。次年度は地元行政への移管が完了し、ティルタヤサ自治区とは別の自治区診療所を拠点にした活動に移行する予定です。

#### 3-2. カンボジア支援 (総事業費 1,894 万円)

##### ① コンポントム州母子保健改善に向けた健康な村作り事業 (補助金事業)

コンポントム州での活動の集大成として実施してきた3年計画の「母子保健改善に向けた健康な村作り事業」ですが、2014年7月に事業目標を達成し無事に終了しました。具体的には、村の妊産婦を戸別訪問して母子保健を推進する母子保健ボランティア育成、トイレの建設等を通して衛生的な生活を推進する衛生モデル世帯支援、保健ボランティアが各村で行う保健教育、村と保健センターとのネットワーク支援、妊婦の緊急搬送等のためにトゥクトゥクを利用する搬送システム作りなどを行いました。その結果、2007年と比較し2014年には妊婦健診を4回受けた人が4倍に、保健センターでの普通分娩が143倍に増える等、村人が自主的に健康的な行動を取るようになりました。

##### ② コンポンチャム州母と子のための地域保健システム強化事業 (補助金事業)

2014年10月より新事業地コンポンチャム州にて、新たに3年間の「母と子のための地域保健システム強化事業」を開始しました。新規事業では、「保健行政区能力強化」「助産師育成」「保健センターの機能強化」「地域住民の意識向上」を4つの柱として、妊産婦や乳幼児に適切な保健サービスを届けることを目指しています。初年度は、新しい保健行政区スタッフが保健センターを指導・監督できるように研修を行いました。また、保健センター准助産師への卒業研修や保健センターの設備支援、村人に保健教育を行うため、保健ボランティアへの研修を実施しました。

#### 3-3. タイ支援 (総事業費 3,534 万円)

##### ① HIV/エイズ予防教育事業 (補助金事業)

チェンマイ県において10年以上HIV/エイズ予防教育を実施してきましたが、その集大成として2014年度から18校の高等専門学校生を対象にした3年事業を開始しました。今年度はその2年目にあたり、新たな6校を対象に事業を実施しました。120名のピアエデュケーターを育成し、彼らが1,950名に対してピア教育を行いました。また、各学校にピア教育ルームを開設したほか、166名がHIV抗体検査を受診しました。3名の学生に陽性反応の結果が出ましたが、全員が病院で確認検査を受け(3名共に陽性反応)、適切な治療を続けています。

##### ② HOPE パートナー教育支援 (自主事業)

1998年以来継続しているプログラムですが、今年度は、タイ国籍を持たない患者で急遽家族でミャンマーに帰国することになった患者2名が卒業しました。また、長年治療を続けていた患者1名が他界しました。現在は21名に対して支援を行っています。家族が自宅で積極的にリハビリケアを行えるよう

に、リハビリセンターや病院で実施する定例活動や理学療法士が行う家庭訪問においても、リハビリの方法を専門家が家族に積極的に伝えるようにしています。

### ③ 小児先天性心臓病手術支援（自主事業）

昨年に引き続き多くの企業のご支援のもと、子ども達の心臓病手術支援を行いました。タイ国籍を持たない子供への支援も含め 28 名の手術に成功しました。また、地方に住む心疾患の疑いのある子供たちを救うため、チェンマイ大学病院小児心臓医による移動検診を支援しました。チェンマイ大学病院の医療器材を持ち込んで検診を行い、38 名の患者が受診しました。

### ④ ベトナム乳がん早期発見事業（自主事業）

タイ事務所の経験を生かした乳がん早期発見事業を、ベトナム・ウィメンズ・ユニオン（VWU）と協同し、ベトナム北部にて3年計画で実施しています。FY15は2年目事業の後半と3年目事業の前半にあたります。2年目事業では目標5,000名に対して6,113名の女性が自己触診を実施しました。16名に腫瘍が見つかり、その後の精密検査で6名が乳がんと診断され、それぞれ治療を受けています。3年目のとなる現在は、活動地を変更し事業を継続しています。

## 3-4. ミャンマー支援（総事業費 1,094万円）

8月に保健省との事業合意書を締結し、2015年3月にネピドーで現地事務所を開設しました。ミャンマー政府の要請を受け、ネピドー特別自治区内のタッコン郡を事業地と定め、母子保健を中心とした保健機能強化を支援する事業を実施するための準備を行いました。団体登録に関しては着実に進展しています。最初の医療機器寄贈として、7月に保健省に電子体温計、血圧計を寄贈しました。予定していたステーション病院の改築補修は現地側の要請でサブセンター建設に変更し、見積り、業者選定等準備を始めています。2015年4月には日本の支援者から寄贈された中古救急車を現地に移送し、タッコン郡病院への寄贈式を7月に開催します。

## 3-5. 東日本大震災支援活動（総事業費 1,246万円）

PHJは気仙沼市医師会を通して、これまで支援が足りなかった病院にニーズが高い医療機器類を納入しました。石巻は支援している診療所に隣接した包括ケアセンターに軽自動車とリハビリ用器械を寄付しました。また多賀城腎・泌尿器クリニックには既に寄贈した透析用機器のメンテナンス部品を支援しました。